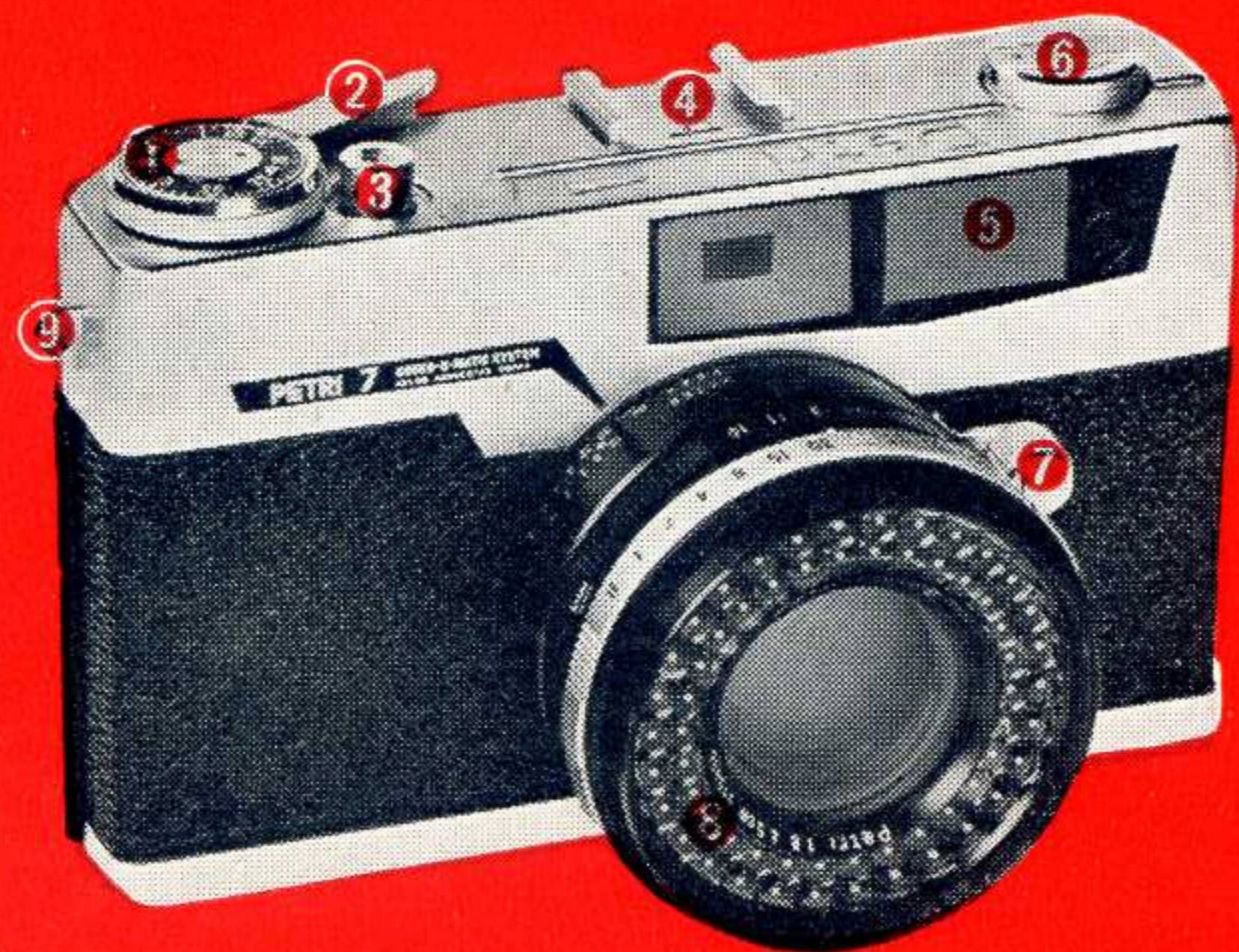


PETRI *cz* 1.8

INSTRUCTION BOOK



各部の名称

- | | | |
|---------------------|------------------|--------------|
| ①フィルム枚数計 | ⑦フォーカシングレバー | ⑭絞り目盛 |
| ②フィルム巻上げレバー | ⑧サークル・アイ式露出計受光部 | ⑮距離目盛 |
| ③シャッターリリースボタン | ⑨吊環 | ⑯フィルム感度表示レバー |
| ④アクセサリシュー | ⑩フィルム感度表示窓 | ⑰セルフタイマーレバー |
| ⑤グリーン・オ・マチック・ファインダー | ⑪シャッター速度表示目盛 | ⑱シンクロターミナル |
| ⑥フィルム巻戻しクランク | ⑫シャッター速度・絞り指標 | ⑲リターンボタン |
| | ⑬シンクロM X 接点切替レバー | ⑳三脚穴 |



も く じ

各部の名称・2 / 各部の働き・3 / フィルムの入れ方・4 / 連動露出計の使い方・7 / ピントの合わせ方・10 / セルフタイマーの使い方・11 / 正しい構え方・14 / シンクロフラッシュ撮影・16 / 被写界深度とその利用法・18 / フィルムの出し方・20 / アクセサリー・22 /

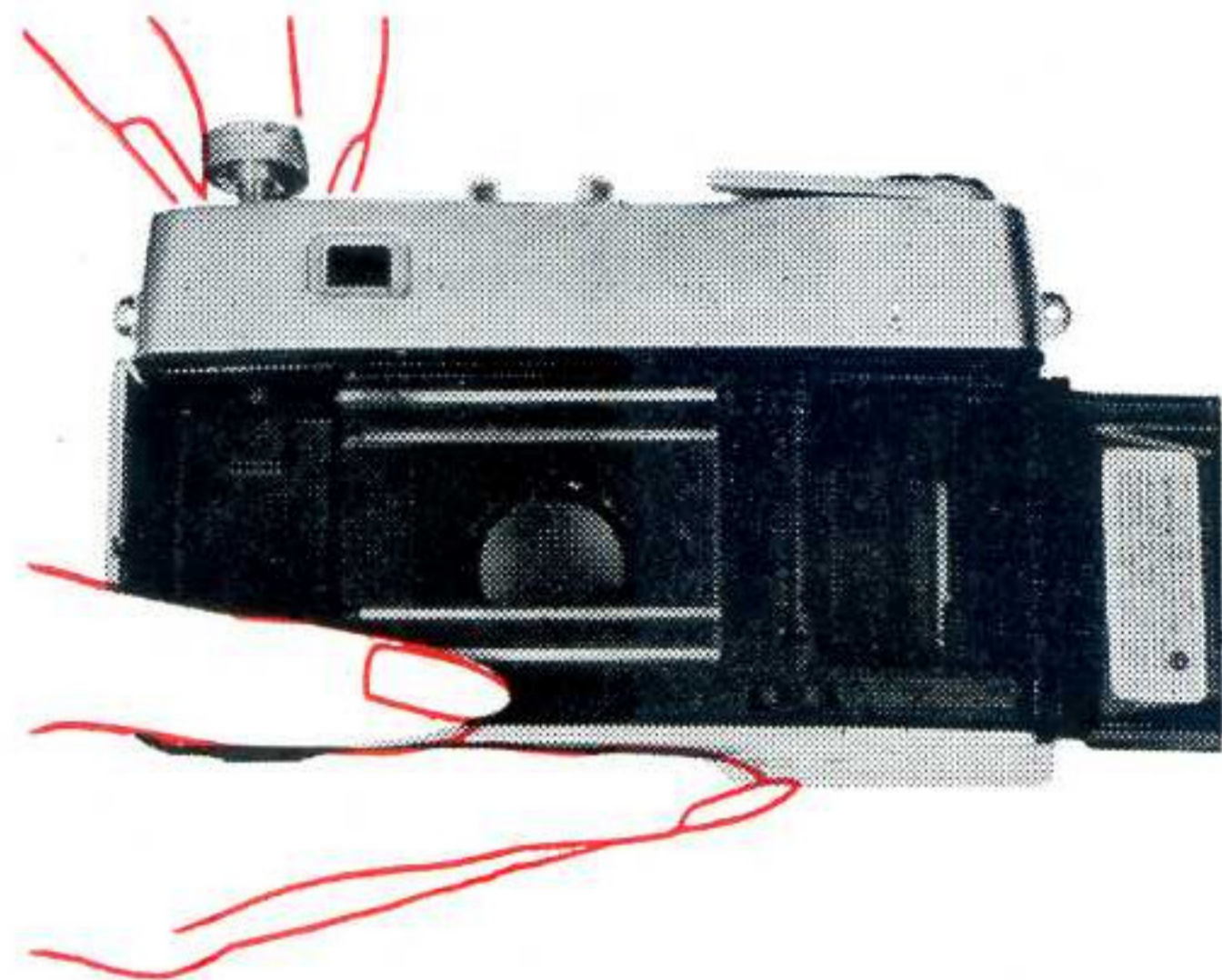
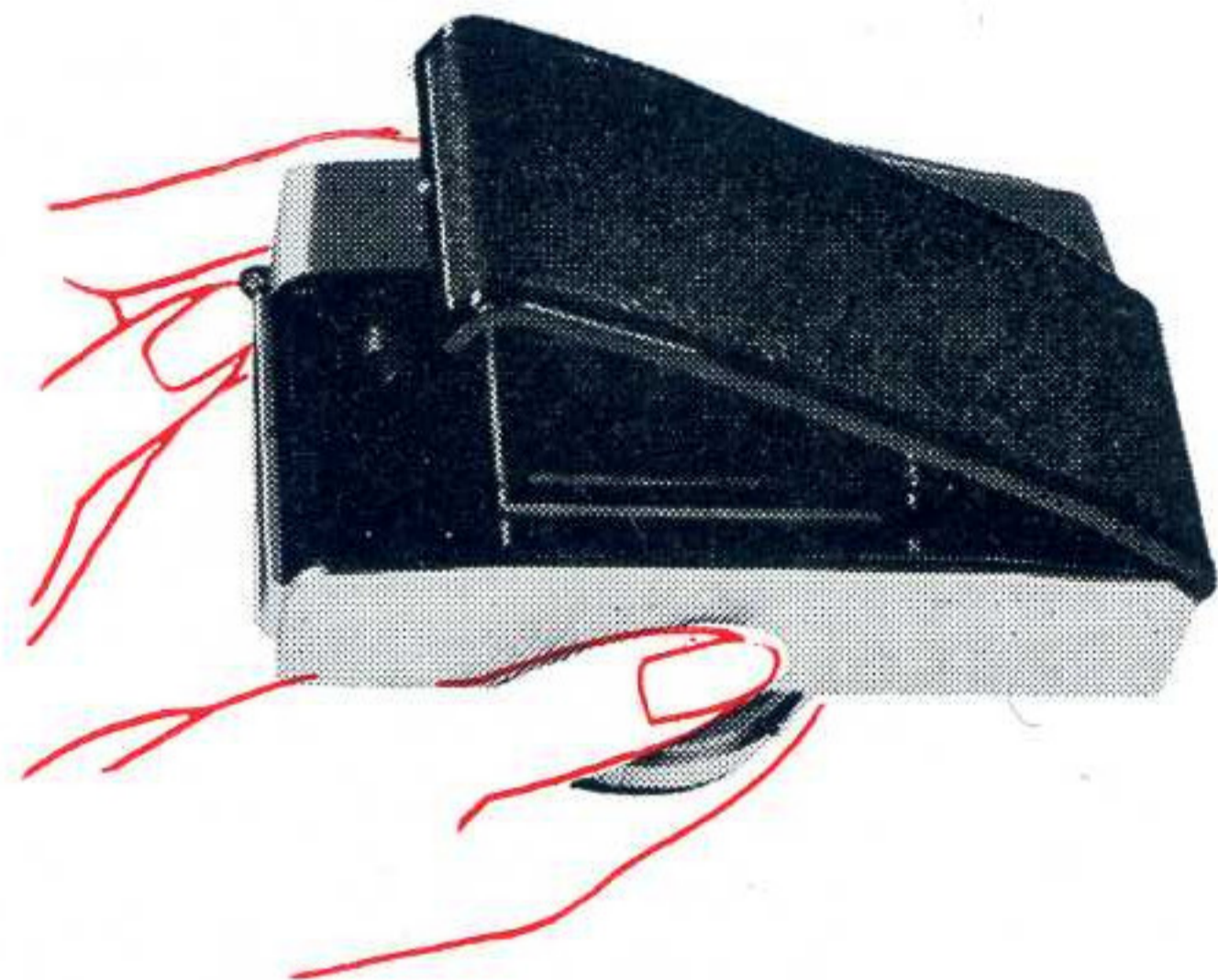
各部の働き

カメラ各部の働きについて主なものをあげてみましょう。(欠番の部分については後の項を参照してください)

- ①フィルム枚数計 撮影枚数を指示するものです。
- ②フィルム巻上げレバー 1作動でフィルムが1コマ巻上げられ、シャッターがチャージされます。
- ④アクセサリースュー フラッシュガンを取り付けるための台座となります。
- ⑤グリーン・オ・マチック・ファインダー 一眼二重像合致式の明るく見やすい当社独特のファインダーです。
- ⑥フィルム巻戻しクランク 撮影終了後これでフィルムをパトローネに巻戻します。
- ⑦フォーカシングレバー ピントを合わせるためのレバーです。
- ⑧サークル・アイ式露出計受光部 ここに受けた光の強さによって、露出計の指針が動きます。
- ⑩フィルム感度表示窓 使用フィルムのASA(DIN)感度をこの窓に合わせておきます。⑬のフィルム感度表示レバーを動かして調節します。

フィルムの

入れ方

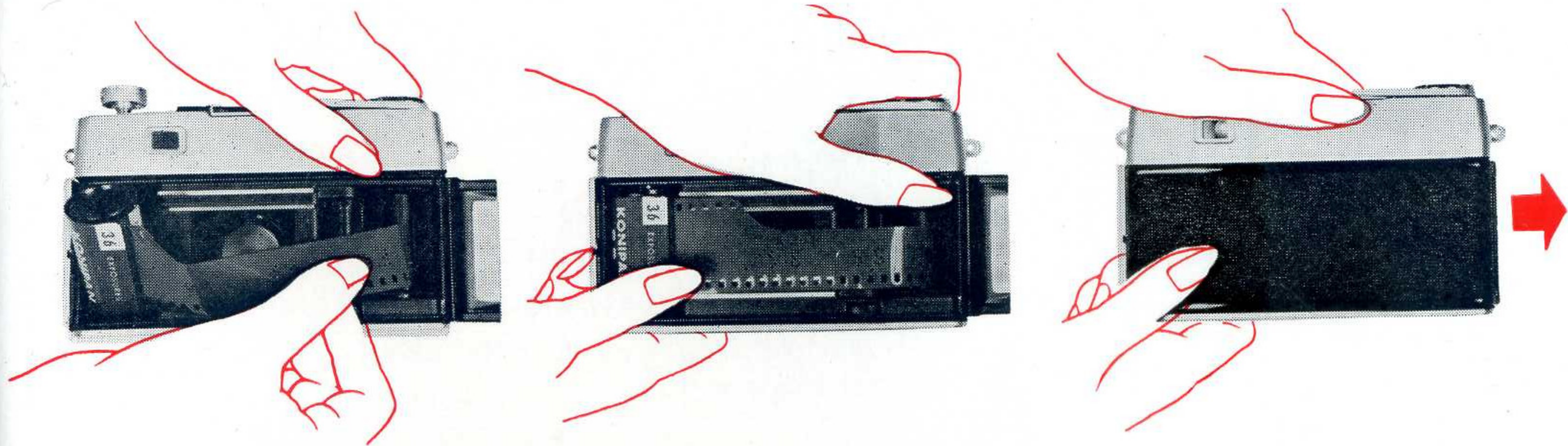


裏蓋をあける

カメラ側面の裏蓋開閉レバーに爪をかけて引くと、裏蓋がスプリングの力で開きます。(フィルムはパトローネ入りの35ミリフィルムを使います。)

巻戻しクランクを引き出す

巻戻しクランクをつまんで、止まるところまで引き出します。これでパトローネボックスにフィルムをおさめることができるわけです。



フィルムの先端をスプールの溝にさしこむ

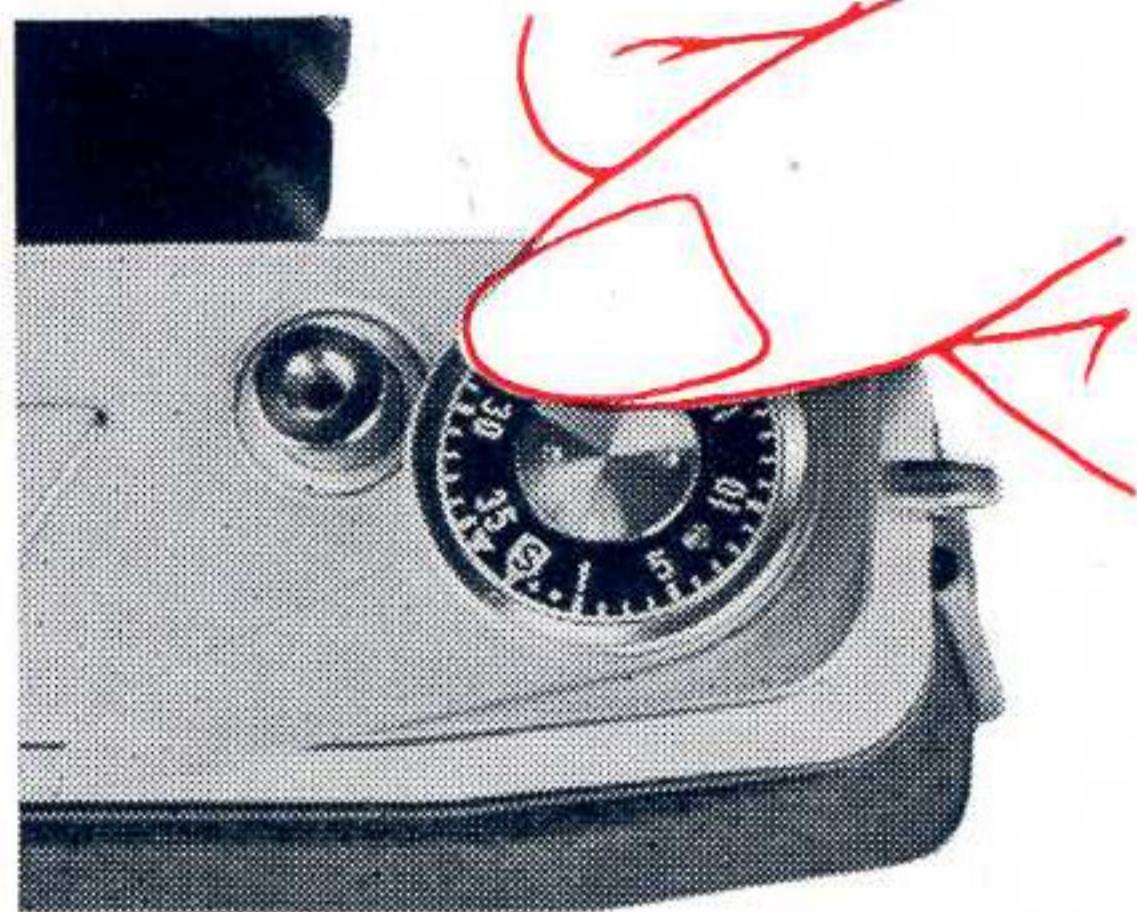
フィルムの先端を巻取りスプールの溝にさしこみ、パーフォレーション(フィルムの爪孔)を、溝の突起にひっかけます。

フィルムを少し巻取る

フィルムをパトローネボックスに納めた後、巻取りスプールのつばに指をかけて回し、フィルムを少し巻取ってみます。パーフォレーションをsprocketの歯に完全にかみ合わせてください。

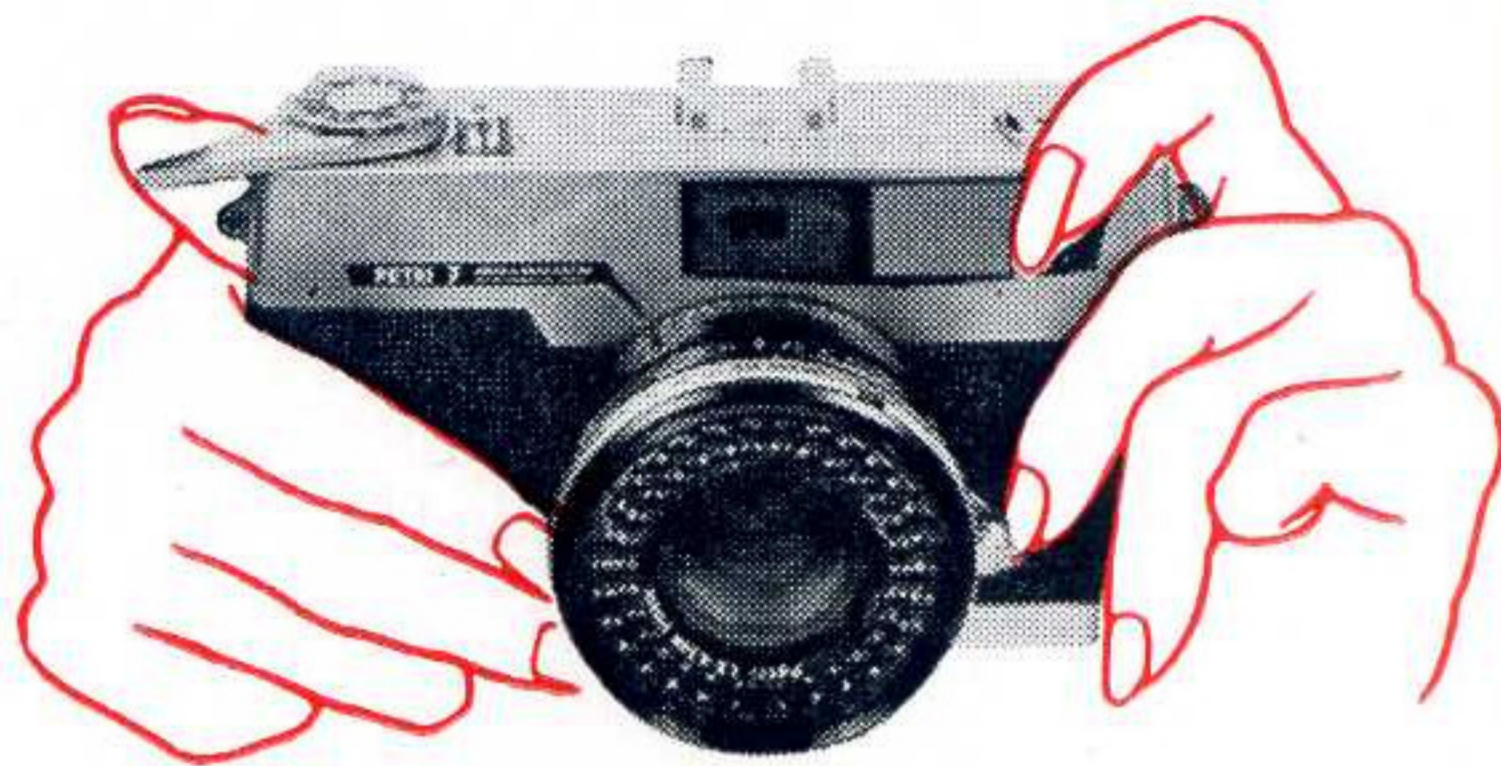
裏蓋を閉める

巻戻しクランクを元に戻し、フィルムが正しく装てんされているか十分に確認した上で裏蓋を閉めます。裏蓋はとじて押せばパチンと自動的に閉まります。



フィルム枚数計のS印を 指標に合わせる

フィルム枚数計のポッチに爪をかけて時計の方向に回し、S印(スタートマーク)を赤点の指標に合わせます。



空写しを2回行う

フィルム巻上げレバーを巻いてシャッターを切る操作を2回くり返し、撮影直前に3回目の巻上げをします。あとはシャッターを切るだけで第1回目の撮影ができます。

フィルム装てん上のご注意

□ペトリ7 1.8は20枚撮り、または36枚撮りのパトローネ入り35ミリフィルムを使用します。

□フィルムの装てんは直射日光下をさけてください。必ず日陰をえらんで行いましょう。

□裏蓋を閉じてレバーを巻上げる際、巻戻しクランクが逆の方向に回っていれば、フィルムが正しく巻上げられていると判断されます。巻上げがかたかったり、巻戻しクランクが逆方向に回らないときは、装てんのやり直しをしてください。

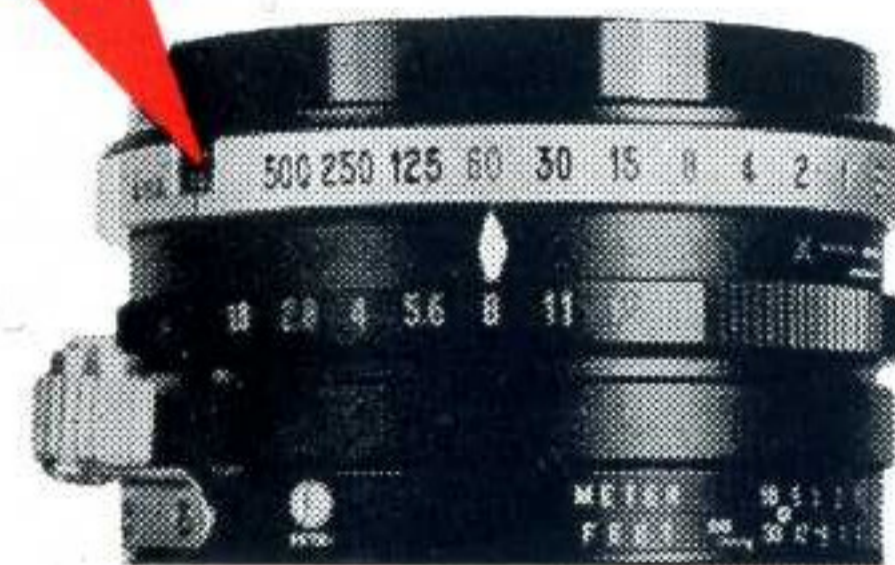
連動露出計の使い方

高性能光電池を使用したサークルアイ機構の反射光式電気露出計は、フィルム感度、シャッター速度、絞りの三要素に完全連動します。ASA露出指数系列は10、・(16)、25、・(32)、50、100、200で、その連動範囲はASA 100のフィルム使用の場合、L.V. (ライトバリュー) 7~L.V. 17という広さですから、非常に明るい被写体でも、かなり暗い被写体でも測定できます。露出計の操作は次の順序で行います。

- ①フィルムの装てんが終わったら、すぐにフィルム感度表示レバーを動かして、使用フィルムのASA露光指数をフィルム感度表示窓に出しておきます。(右図参照)
- ②被写体の明るさに応じて、たとえば戸外なら $\frac{1}{250}$ 秒、室内なら $\frac{1}{30}$ 秒という具合に、適当にシャッター速度リングを回して希望の速度にセットしておきます。
- ③被写体に向けてカメラを構え、ファインダーをのぞきながら絞りリングを回し、視野内に見える指針を指標に合わせます。このままでもう適正露出になっています。



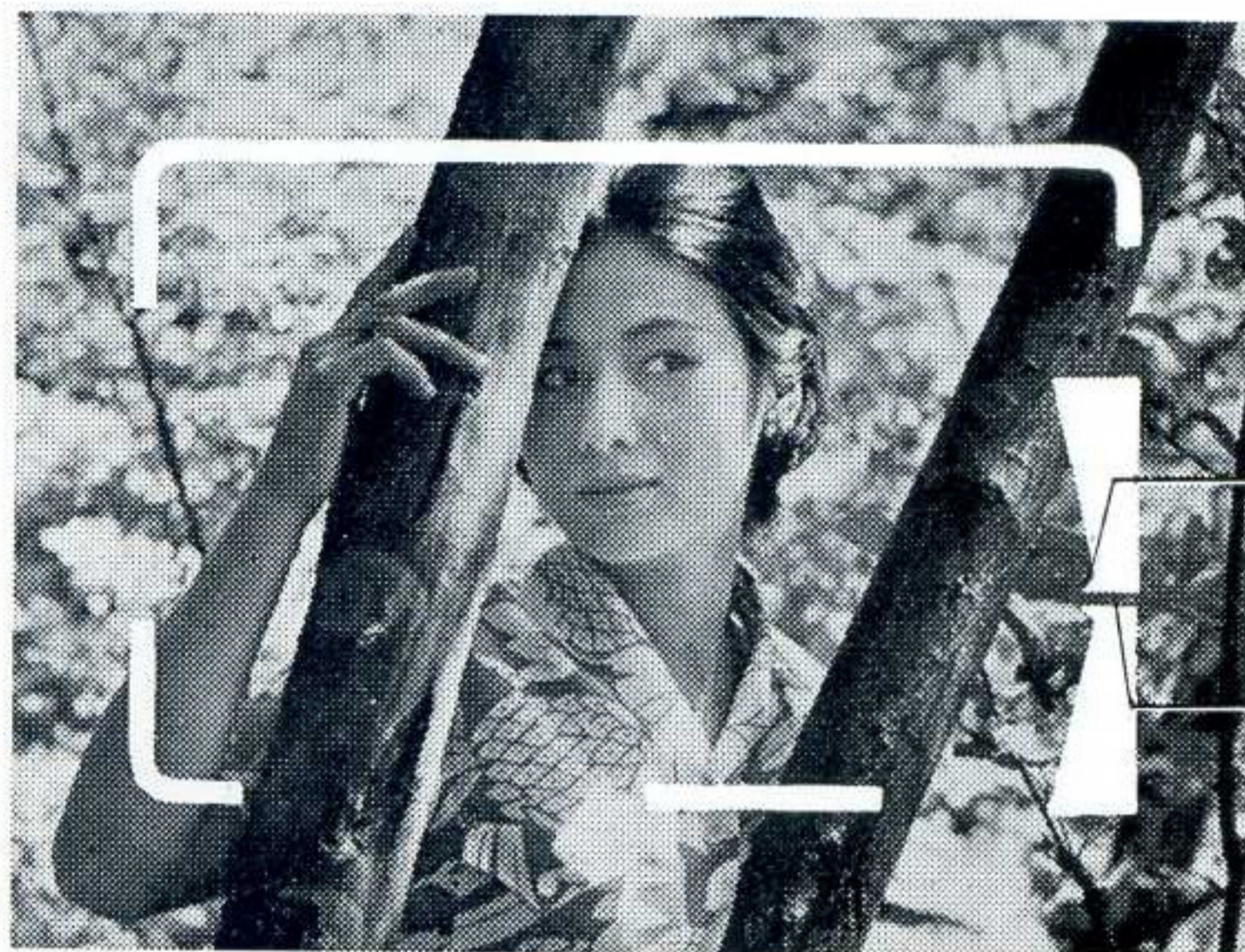
フィルム感度表示レバー



フィルム感度表示窓 (ASA・DIN)



ファインダーをのぞきながら
絞りリングを回します。



適正露出指標

ファインダー視野内指針

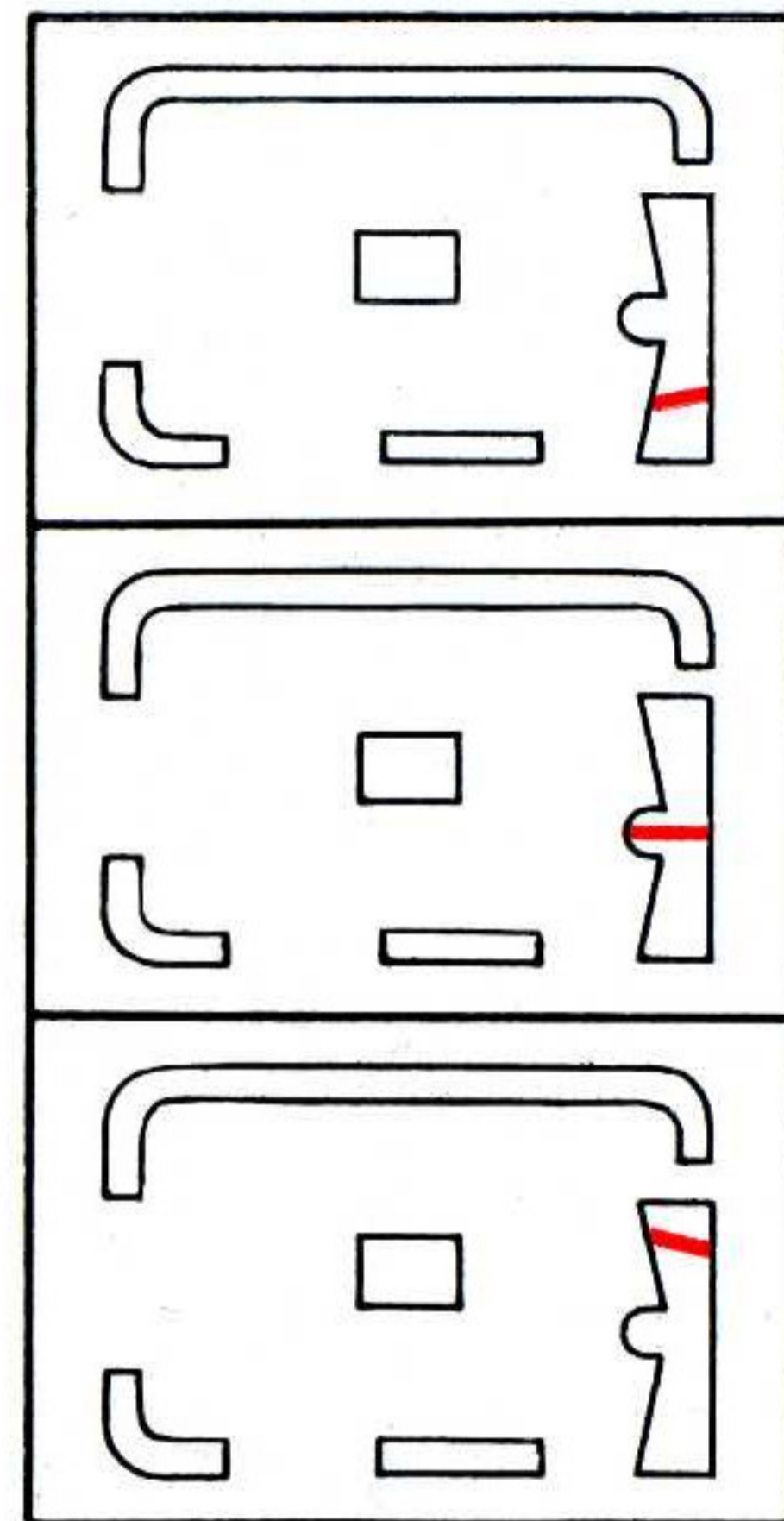
ファインダー視野の右下に指
針と適正露出指標が見えます。

[注]視野内視針を指標に合わせるとき、絞りだけで調節しきれなければ、シャッター速度を変えてください。暗い所で高速シャッターを使ったり、明るい所で低速シャッターを使うと、こういうことがあります。

露出計受光部がサークルアイになっていますから、フィルター使用の際にも露出倍数を考慮する必要がありません。

露出計連動範圍一覽表 (ASA 100 のとき)

F No. / L. V.	1. 8	2. 8	4	5. 6	8	11	16
7	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1	
8	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$	1
9	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{2}$
10	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{4}$
11	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$
12		$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$
13			$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$
14				$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$
15					$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$
16						$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$
17							$\frac{1}{500}$

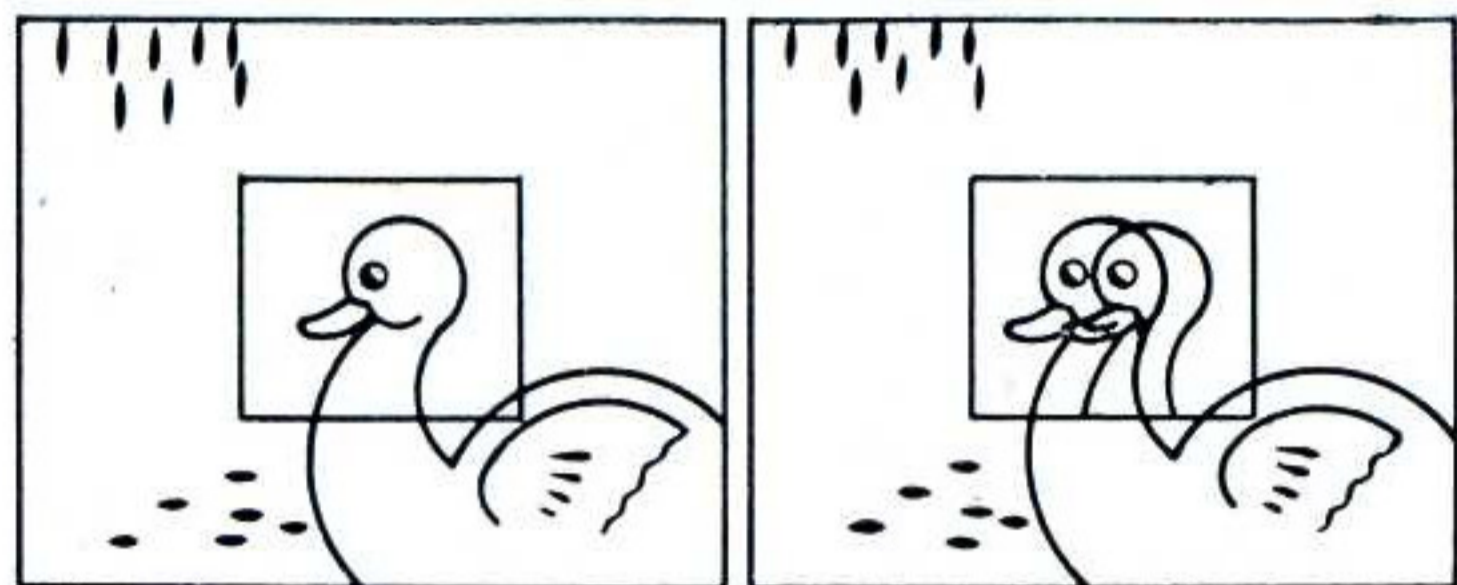


露出不足

適正露出

露出過度

ピントの合わせ方



ピントの合ったとき ピントの合わないとき

ファインダーをのぞきながらフォーカシングレバーを動かすと、視野の中央に見える二重像の一方が動きます。この二重像を完全に合致させればピントが合ったこととなります。上の図を参照してください。

実際に写る範囲は視野内のブライトフレーム（明るく光る枠）で区切られて見えますから、このフレームによって構図をきめます。

グリーン・オ・マチック・システムの特長

①グリーン・オ・マチック・ファインダーには特殊クラウンガラス使用のグリーンフィルターを用いてありますから、被写体に適度なコントラストをつけ、暗い所でも見やすくなっています。その上長時間にわたっての撮影にも、目を疲れさせない特長があります。

②ゴールデン・ブライトフレームは、きわめて明るく見やすい上に、多少目の位置がズレても、いつも正しい視野をきめてくれます。

③ワイドタイプのアイピース（のぞき窓）が大きいので、眼鏡をかけたままでも、正しくのぞくことができます。

ペトリ7 1.8にはこうした独自の新しいアイデアで設計された見やすいファインダーが取付けられています。



セルフタイマーの使い方

セルフタイマーレバーを止まるところまで引いてセットし、リリースボタンを押せば約8秒後にシャッターが切れます。このセットはフィルムを巻上げる前でも後でもかまいません。

セルフタイマー使用上の注意点としては、

- ①セルフタイマーは各速度に使えますが、B（バルブ）には使えません。
- ②セルフタイマーの作動時間を短かくしたいときは、止まるところまで引かずに途中位置までにしておけば可能です。
- ③シンクロ撮影時にセルフタイマーを使うには、シンクロMX接点切替レバーを必ずX接点に合わせた上で撮影してください。
- ④シンクロ撮影時以外は、MX接点切替レバーをどちらに合わせおいても、セルフタイマーの作動になんら支障ありません。

カラー写真にも絶好です

ペトリ F 1.8 レンズは、黑白フィルムはもちろん、カラーフィルムにも適するすばらしいレンズです。特にカラー撮影で大切な色収差をはじめ、絞りによる焦点の移動などあらゆる収差を取り除き、開放のままでも高い解像力を示します。F 1.8 という大口径ですから、室内や夜間のように暗い被写体でも、比較的感光度の低いカラーフィルムで楽に撮影ができます。その上、ペトリ独特のアンバーコーティングはカラーの効果をもっと高く発揮してくれます。

カラーフィルムは露出のラチチュード(寛容度)がせまいので、カラー撮影では露出が非常に重要な問題となりま

す。この点ペトリ F 1.8 は、露出計が完全連動しており、すべてカメラが自動的に測定してくれますから、なんら心配なく気楽にシャッターが切れます。

昼光用のカラーフィルムでフラッシュ撮影したり、電灯光下で撮影する場合、あるいは朝夕や曇り日の撮影ではカラー用フィルター(色温度補正転換フィルター)を用いますが、このカメラ独特のサークル・アイ機構は、露出倍数を考える必要がなく、余計な神経を使わずに済みます。(これは黑白用フィルターの場合も同様です。)

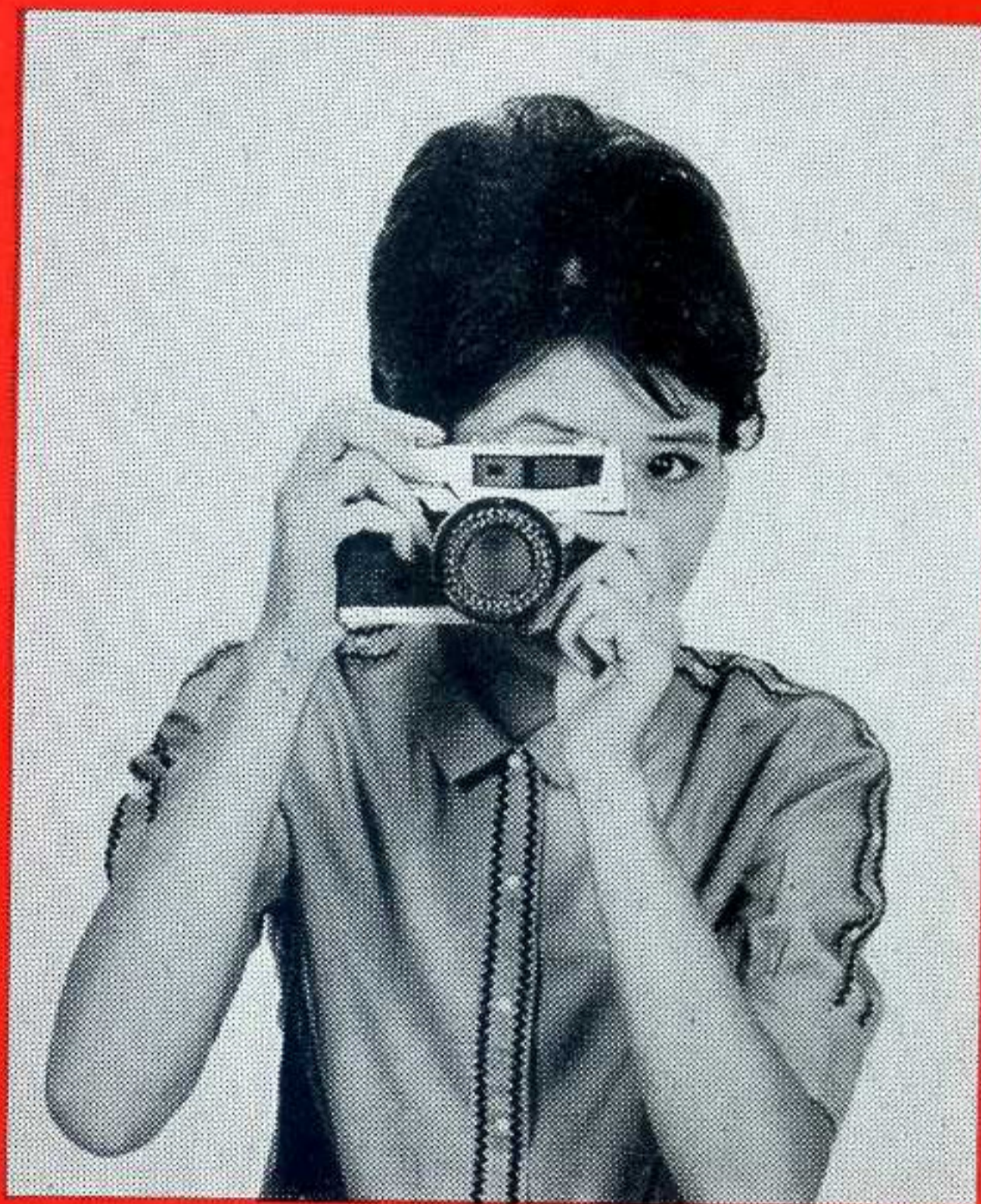
このように数多くの特長をもつペトリ F 1.8 は、カラー撮影におあつらえむきといえましょう。





正しい構え方

横位置



縦位置

縦位置



両手でしっかりカメラを持ち、カメラの背部を鼻、ひたいなどにぴったりつけて構えます。要は安定すればよいわけで、どんな構え方をしても差支えありませんが、最も適切な形として示したのが左の写真です。

シャッターレリーズボタンは人差指の腹で静かに押してゆきます。縦位置の構え方では、親指で押す場合もあります。いずれにしても、シャッターを切る瞬間にカメラをブラさないことが、いちばんたいせつです。

連続的にスナップ撮影したいときには、構えたままの態勢でフィルム巻上げレバーを操作し、直ちに次の撮影をすることができます。

軽くて堅牢なシャッター

ペトリ7 1.8のシャッターレリーズボタンは、非常に軽いのでカメラブレのおそれがなく、安心してシャッターが切れます。また、堅牢ですから相当な酷使にも十分耐えることができます。

撮影にかかるまでの順序

フィルムを装てんし、使用フィルムのASA (DIN)感度をフィルム感度表示窓に出して、撮影の準備が終わります。そして被写体に対したら、次の順序で操作してください。

- ①レンズキャップをはずす。
- ②シャッター速度をきめる。
- ③フィルム巻上げレバーを巻き上げる。
- ④カメラを被写体に向けて構え、ファインダーをのぞきながら絞りのリングを回して露出計の指針を指標に合わせ、次いでフォーカシングレバーでピントを調節した後、ブライトフレーム内で構図をきめる。
- ⑤シャッターレリーズボタンを静かに押す。

以上の操作を撮影枚数だけくり返し、全部写し終わったらフィルムを巻き戻して取り出します。(フィルムの出し方は後掲の通りです)



シンクロフラッシュ撮影

動きの速いものを写しとめたいが、高速シャッターを切るには暗すぎるとか、夜の街頭で明るく写したいが電源がない、といった場合、シンクロフラッシュ撮影が必要になります。

フラッシュガン(発光器)のコードをシンクロターミナルに接続し、閃光電球をフラッシュガンに取り付けてシャッターを切れば、シャッターの開口と同時に閃光電球が発光して、明るい写真が写せます。(小型のフラッシュガンなら、アクセサリシューに取り付けられます。)

ただし、閃光電球の種類に応じて、カメラの接点の種類を変えなければなりません。つまりM級の閃光電球では、シンクロMX接点切替レバーをM接点に合わせ、F級の閃光電球やストロボを使うときはX接点に合わせなければならないのです。

各閃光電球と各接点との組み合わせによる使用可能のシャッター速度は次表に示す通りです。シンクロ撮影の場合の露出は使用閃光電球によって異なりますから、閃光電球の外箱の露出表を見てください。

フラッシュ同調表

閃光電球 の種類	M 接点	X 接点
M 級	全速度同調	$\frac{1}{30}$ 秒まで同調
F 級	————	$\frac{1}{60}$ 秒まで同調
ストロボ	————	全速度同調



- 上表でおわかりのように、M級閃光電球をお使いになれば、M接点で全速度に同調します。一般には、この組合わせをお使いになることをおすすめします。
- ストロボはアマチュア用のものも出まわっておりますが、数多く撮影される方におすすめします。ただし、あまり光量の大きいものではありません。

被写界深度とその利用法

ある一点にピントを合わせたとき、その前後にも実用上シャープに写る範囲があります。この範囲を被写界深度といますが、これは後ろに深く、前に浅い性質があります。被写界深度は次のような条件によって変わってきます。

- ①一定の距離では絞りを小さく絞るほど深くなります。
- ②一定の絞りでは撮影距離が遠いほど深くなります。
- ③距離と絞りが同一でも、レンズの焦点距離が短いほど深くなります。

焦点距離45mmのペトリF1.8は、比較的短焦点なので被写界深度が割合深く、したがってスナップ向きのカメラといえましょう。しかし、その反面大口径ですから絞りを開けば深度はかなり浅くなります。ポートレートなどでわざとバックをぼかしたいときには、こんな技法を使うこともできます。

次ページの被写界深度表は、各絞り、各距離において鮮明に写る範囲を示したもので、これを作画効果と結びつけてご利用なさることをおすすめします。

ペトリ F 1.8 45mm 被写界深度表

(フィート)

(メートル)

F No. 距離	1.8	2.8	4.	5.6	8	11	16
2.75	2.69 2.82	2.65 2.86	2.61 2.91	2.56 2.97	2.48 3.08	2.40 3.23	2.26 3.50
3	2.92 3.08	2.88 3.13	2.83 3.19	2.77 3.27	2.69 3.40	2.58 3.58	2.46 3.92
4	3.86 4.15	3.79 4.24	3.71 4.35	3.60 4.50	3.45 4.76	3.28 5.12	3.04 5.86
5	4.78 5.24	4.67 5.38	4.55 5.56	4.39 5.82	4.17 6.25	3.92 6.90	3.57 8.34
6	5.69 6.34	5.53 6.55	5.35 6.82	5.13 7.22	4.88 7.90	4.50 8.98	4.05 11.61
8	7.46 8.63	7.19 9.02	6.89 9.55	6.52 10.35	6.04 11.84	5.53 14.43	4.85 22.74
12	10.81 13.48	10.25 14.48	9.64 15.89	8.94 18.25	8.06 23.50	7.17 36.66	6.09 ∞
30	23.50 41.53	20.96 52.83	18.57 78.30	16.11 218.72	13.44 ∞	11.14 ∞	8.66 ∞
∞	107.57 ∞	69.22 ∞	48.46 ∞	34.60 ∞	24.21 ∞	17.61 ∞	13.00 ∞

F No. 距離	1.8	2.8	4	5.6	8	11	16
0.8	0.78 0.82	0.77 0.83	0.76 0.84	0.75 0.86	0.73 0.89	0.70 0.93	0.66 1.01
0.9	0.88 0.92	0.87 0.94	0.85 0.96	0.83 0.98	0.88 1.09	0.78 1.07	0.73 1.17
1	0.97 1.03	0.96 1.05	0.93 1.07	0.91 1.10	0.89 1.15	0.85 1.22	0.80 1.35
1.2	1.16 1.24	1.14 1.27	1.11 1.30	1.08 1.35	1.04 1.42	0.99 1.53	0.91 1.75
1.5	1.44 1.57	1.40 1.61	1.37 1.66	1.32 1.74	1.25 1.87	1.18 2.06	1.08 2.48
2	1.89 2.13	1.83 2.20	1.77 2.31	1.69 2.46	1.58 2.72	1.47 3.15	1.31 4.25
3	2.75 3.29	2.63 3.48	2.50 3.75	2.34 4.16	2.14 5.00	1.93 6.67	1.67 15.04
5	4.34 5.89	4.05 6.54	3.74 7.52	3.40 9.43	2.99 15.19	2.60 64.52	2.13 ∞
10	7.68 14.35	6.79 18.94	5.97 30.68	5.14 ∞	4.26 ∞	3.50 ∞	2.71 ∞
∞	32.79 ∞	21.10 ∞	14.77 ∞	10.55 ∞	7.38 ∞	5.37 ∞	3.69 ∞

フィルムの

出し方



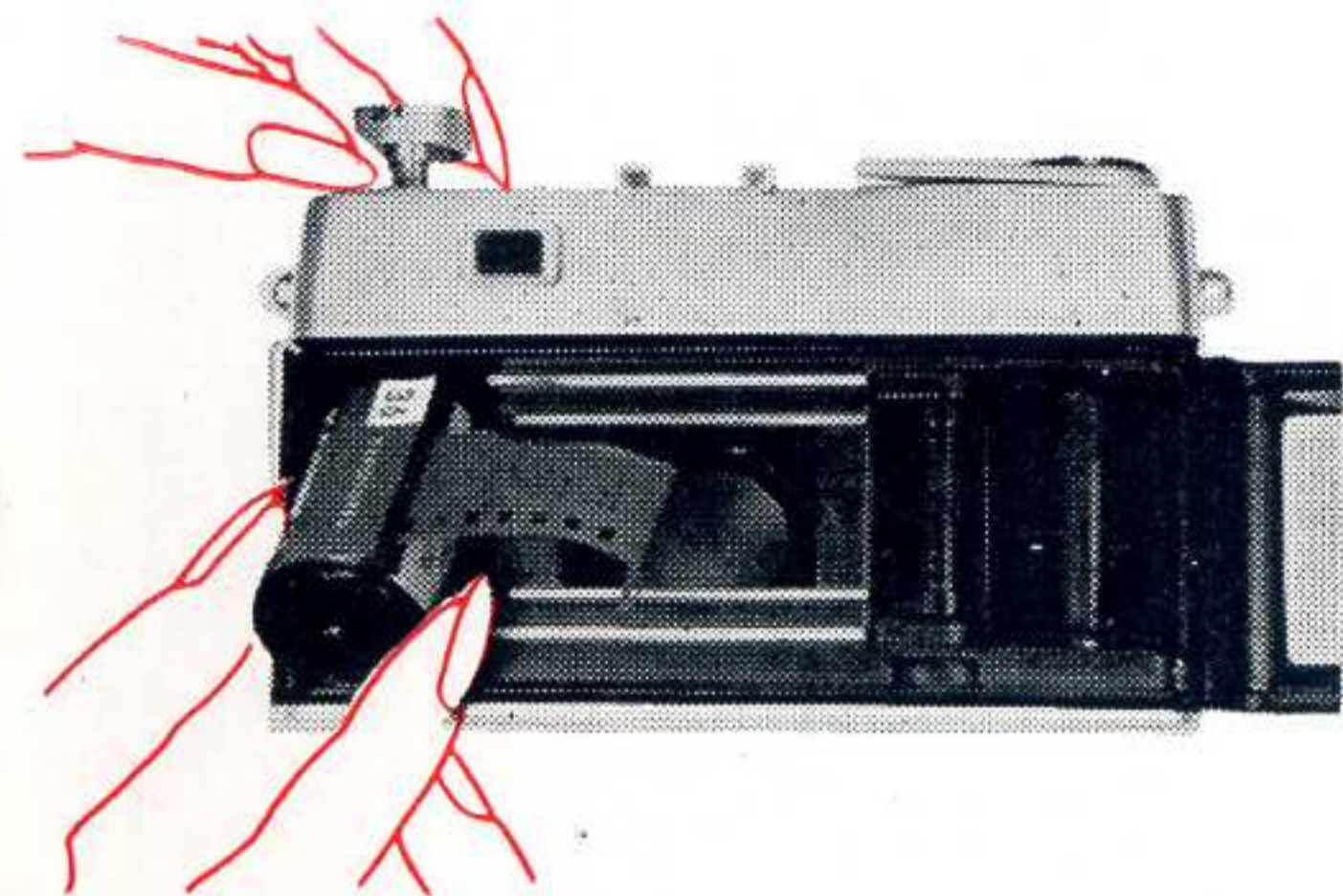
リターンボタンを押す

フィルムを全部撮影し終わったらもとのパトローネに巻き戻さなければなりません。まず、カメラ底部にあるリターンボタンを押します。



巻戻しクランクを起こして回す

リターンボタンを押したまま、巻戻しクランクを起こして矢印の方向に回します。これでフィルムがパトローネに巻き戻されてゆくのです。



フィルムを取り出す

巻戻しの手ごたえが急に軽くなったら、完全に巻き戻されたと判断されますから、裏蓋を開き、巻戻しクランクを引き出して、フィルムを取り出します。

フィルム巻戻し上のご注意

- フィルムを出すときも、直射日光下をさけ、日陰で行ってください。
- フィルムが完全にパトローネに巻き戻せたかどうか不安なときは、フィルム巻上げレバーを操作してみてください。巻戻しクランクが回らなければ、完全に巻き戻されていると判断されます。
- 写し終わったフィルムは、なるべく早目に現像をしてしまいましょう。そのまま放置しておくと、カブリを生じたり、いろいろな故障の原因となります。
- 巻き戻しの際、フィルムの先端までパトローネに巻きこんでしまうと、空のパトローネと区別がつかなくなってしまいます。できれば先端を多少残しておいて、先端に撮影終了のマークをつけておきますと間違えることはありません。



ペトリフード

スマートな丸型、止ネジ式の専用レンズフードは、内面反射防止が完璧ですから、乱反射を防ぐためにどんな撮影にも用いたいアクセサリーです。止ネジ式ですから途中で落すおそれもありません。美しい皮ケースに納められています。

ペトリフィルター

UV 紫外線カット用フィルター。

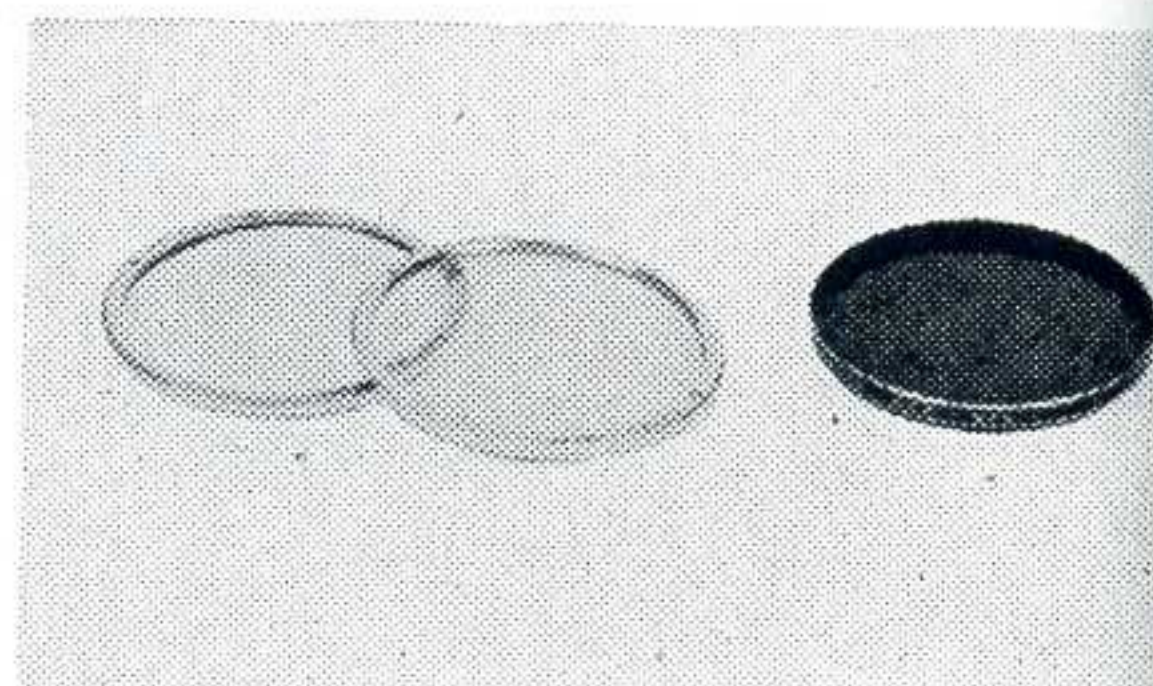
Y1, Y2 黄色系で戸外人物や風景を自然な感じに写します。

YA3 遠景のコントラストをつけるなど強調用として使われる
橙色フィルター。

R1 赤外撮影にも使われる強調用赤色フィルター。

NDX4 感色性に関係なく露出倍数を4倍にするフィルター。

カラー用 W4(温調用), C4(冷調用), C8(フラッシュ用), C12
(写真電球用)



ペトリAUXレンズ

レンズの前面に取り付けて望遠および広角の効果をあげる補助レンズです。望遠用、広角用、望遠広角兼用ファインダーがセットとして発売されます。

主な性能

- タイプ 連動露出計組込みの35ミリカメラ
- 使用フィルム パトローネ入り35mmフィルム
- レンズ ペトリ F1.8 45mm アンバーコーテッド
- シャッター MVEシャッター B・1・2・4・8・15・30・60・125・250・500(倍数系列等間隔)
セルフタイマー・MXフルシンクロ内蔵
- 連動露出計 サークルアイによる反射光式完全連動露出計内蔵
ファインダー視野内指針によるゼロメソッド式
- 焦点調節 一眼二重像合致式距離計連動 直進ヘリコイド式
- ファインダー グリン・オ・マチック・システムによる
ゴールド・ブライト・フレームファインダー
- フィルム巻上 一作動式レバー巻上げ(180°)
- その他 クランク式フィルム巻戻し 裏蓋開閉式
アクセサリケース付



PETRI

栗林写真工業株式会社

本社・工場

東京都足立区梅島町 1

ペトリカメラ東京センター

東京都千代田区九段 2 - 5

ペトリカメラ大阪センター

大阪市南区鰻谷西ノ町 11 - 4